

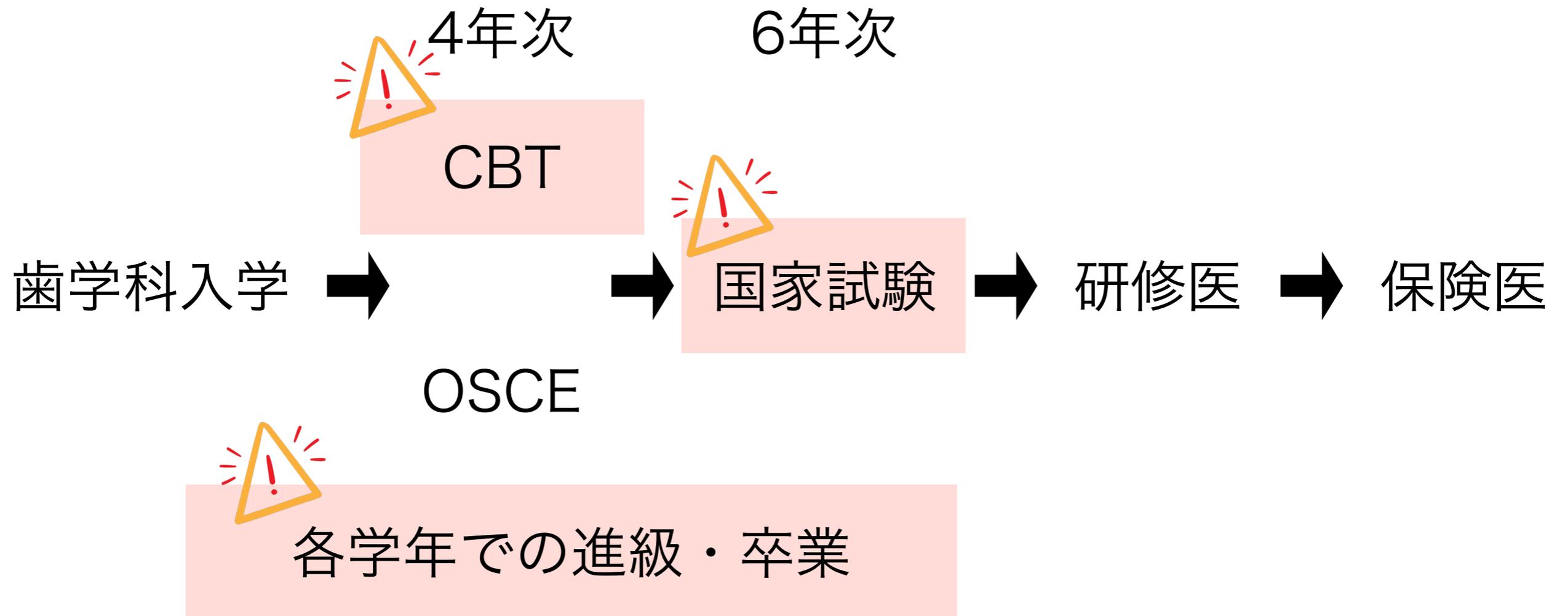
歯科医師国家試験の概要

歯科個別指導MD+ 作成

<https://mdplus-dental.com>

歯科医師への道のり

歯科医師への道のり



CBT : Computer Based Testing (筆記試験)

OSCE : Objective Structured Clinical Examination (実技試験)

保険医 : 保険診療が可能になった医師・歯科医師 = 独立可能になる

歯科医師国家試験 の概要

試験日	毎年1回 1月下旬から2月上旬の2日間
受験資格	歯学科を卒業 もしくは卒業見込み
受験手続き時期	11月中
受験料	18900円
試験会場	全国8箇所
合格発表	3月中旬頃
合格率	 60-65%前後

90%程度の時代もあったが、厳しくなっている

試験内容と 合格率

合格基準

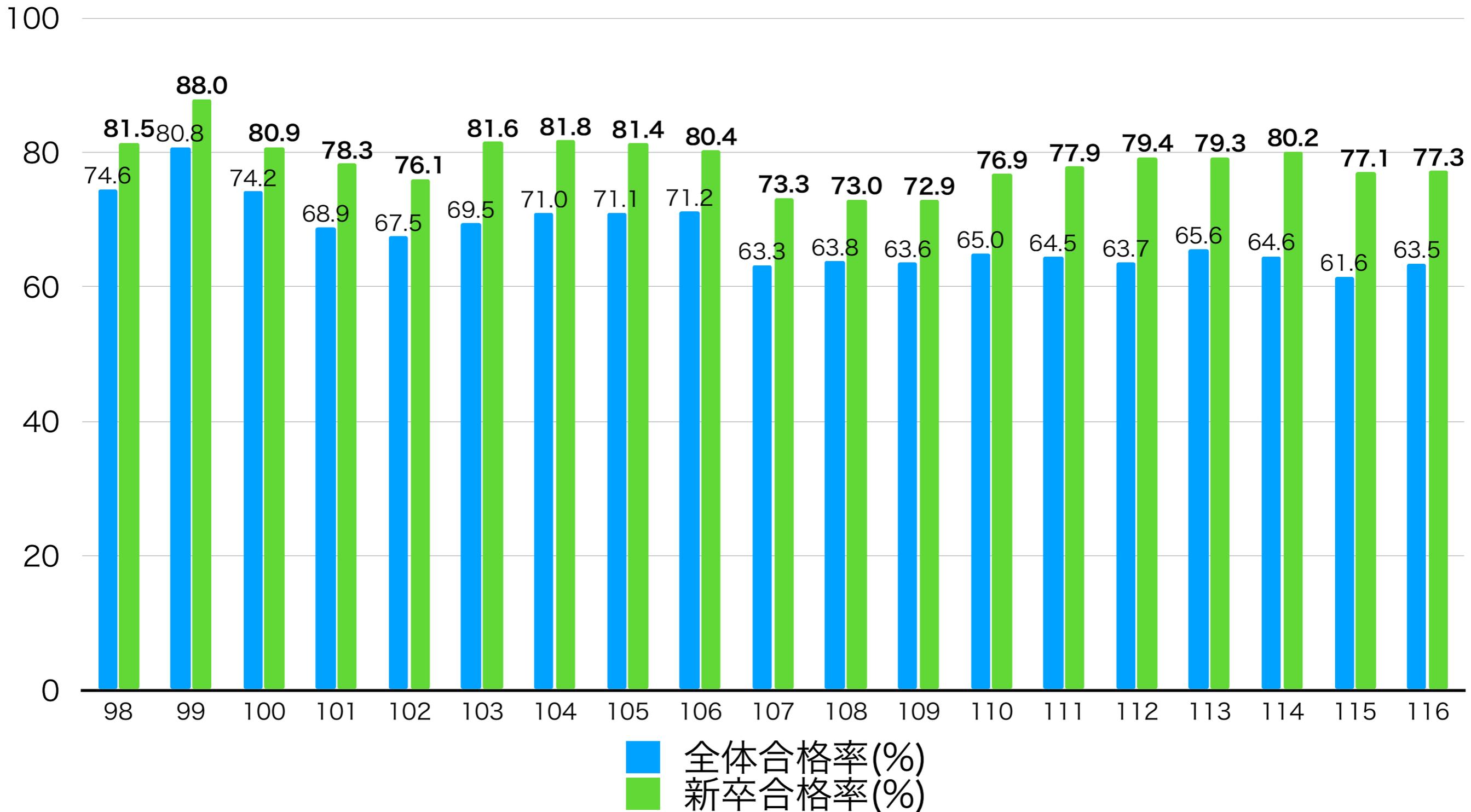
問題区分	問題数	配点	合格基準
必修問題	80		80%以上
一般問題	180	1問1点	領域A(総論)、 領域B(各論)に分けて 実際の試験結果から 決められる
臨床実地問題	100	1問3点	
	360問		

試験後に削除問題として
採点から除外される問題がある



必修、領域A、領域B**全て**で
合格基準を上回る必要がある

歯科医師国家試験 合格率推移



他の国家試験との比較

他の国家資格試験との合格率比較

資格名	受験までに必要な 教育年数	合格率
医師	6年	90%前後
看護師	3-4年	90%前後
薬剤師	6年	70%前後
 歯科医師	6年	60-65%前後
司法試験 (裁判官・検察官・弁護士)	3年(法科大学院の場合)	25%前後
公認会計士	なし	15-20%程度
税理士	学歴・資格・実務経験など	15-20%程度
気象予報士	なし	5%前後

注意したい点

手続き漏れをしない

- 手続きの具体的内容、締め切りは厚生労働省のWebサイトに**毎年掲載**されるので必ず確認しましょう
- 本番での1問ケアレスミスくらいは挽回できますが、手続き漏れは受験できなくなってしまう可能性があるため絶対に避けましょう
- 家族、友人などとの**ダブルチェック**で予防しましょう

領域の割り当ては不明

- 一般問題、臨床実地問題はどちらも領域A(総論)・領域B(各論)に分けられますが、試験問題には明記されていません(=**当日には分からない**)
- 必修、領域A、領域Bの**全て**で合格基準を上回らないと合格できないため、全体の点数は良くても不合格になるケースがあります

採点除外問題が多い

- 年度によって異なりますが、6～17問程度の採点除外問題が発生しています
- 正解選択肢がなかったり、複数の正解パターンがあったり、必修として難易度が相応しくないものなどが採点除外されています
- 当日、「おかしいな」と思い悩む問題は採点除外問題かもしれないので深く悩み過ぎないようにしましょう

昔に比べて合格率は低い

- 全体の合格率は抑制傾向で、直近10年間では63%前後になっています
- それ以前は70%前後、第99回は80.8%もあったことを考えるとかなり抑制されています
- 受験生の努力以前に、昔と比べると純粹に合格しづらい試験になってきています

卒業のハードルも上がっている

- 国家試験の合格率が抑制されているため、大学別の合格率も注目されるようになってきています
- そのため、受験者の合格率を良くするために**卒業試験**などを厳しくする大学も増えています
- その傾向は**進級の難しさ**にも繋がってきており、一度も留年せずストレートで卒業・国家試験合格する人の割合は確実に低下しています(=留年が珍しくない)